

立山縦走 & 劔岳

日程 九月七日～十日 (三泊四日)

場所 富山県立山 室堂(標高 2500m)

メンバー

CL 藤田琢也 二回生

SL 鈴木健悟 二回生

救急 山本修平 二回生

山々のプロフィール

立山三山 - 浄土山(2820m)、雄山(3003m)、別山(2874m)を指している。立山の開山は大宝元年(701年)といわれ、修験者の山として天台宗や真言密教の隆盛とともにさかんになった。日本三大霊山のひとつである。昭和46年の立山黒部アルペンルートの開通に伴い観光地として大きな変貌を遂げた。

劔岳 - 標高2998m。岩と雪の殿堂と呼ばれ、穂高岳と並んで近代アルピニズム発祥の地である。劔沢、平蔵、長次郎などの長大な雪渓が取り巻き、源次郎尾根を始めハツ峰、チンネ、小窓尾根など北アルプスを代表する岩登りルートがある。わずかに一般ルートいえるのは別山尾根コースと早月尾根コースぐらいのもので、このコースとて初歩的な技術を必要とする。

現代における初登攀は明治40年7月であったが人跡未踏、初登攀と思って登った一行は、山頂で錫杖の頭と槍の穂先を発見し、さらに焚き火の跡がある岩窟を発見した。この錫杖の頭と槍の穂先は、奈良時代のものと鑑定された。1000年以上前に何者かによって登られていた事実は驚愕である。

行程

9月7日(木)

22:30 京都タワービル南口集合

23:00 京都駅前発(阪急バス)

9月8日(金)

05:00 JR 富山駅着

05:44 電鉄富山駅発(富山地方鉄道)

08:30 立山室堂バスターミナル着 (途中ケーブルカー、高原バス)

登山開始

08:45 室堂発

09:30 一ノ越山荘着
09:40 発
10:15 雄山山頂社務所着（山頂 3003m には登頂せず 500 円は ...）
10:45 大汝山山頂（3015m）着
大汝休憩所にて昼食 ラーメン
11:30 発
12:12 真砂岳（2861m）着
13:17 別山（2874m）
14:23 劔沢キャンプ場着
テント設営、登山届け提出、など
夕食；牛丼（レトルト牛丼、ご飯）
20:00 就寝

9月9日（土）

03:00 起床、朝食（おでん、夕食のご飯残り）
04:28 劔沢キャンプ場発（別山尾根コース）
05:15 一服劔着
05:20 発
05:30 ごろ？ 日の出
06:34 前劔着
06:45 発
07:17 カニのタテバイ
07:50 劔岳山頂着 ガスで何も見えず
08:22 発
08:55 カニのヨコバイ、梯子
09:30 前劔 振り返ると劔岳の雄姿
10:33 劔沢キャンプ場着
片付け、テント撤収
11:20 発

12:02 劔御前小舎
13:22 雷鳥沢キャンプ場着
テント設営、昼食；みそ煮込みうどん
夕食；ちらし寿司

9月10日（日）

- 05:45 起床、朝食；ハンバーグ、白飯
片付け、テント撤収
- 07:05 雷鳥沢キャンプ場発
- 07:44 室堂バスターミナル着（地獄谷経由）
藤田 - メインザックを鈴木、山本に託し徒歩にて弥陀ヶ原まで下山
鈴木、山本 - 室堂バスターミナル 8:00 発、富山 10:11 着
鈴木、帰省のため別れる

藤田

- 07:50 室堂バスターミナル発
- 08:10 天狗平山荘通過
- 08:55 鎖場
- 09:25 弥陀ヶ原ホテル到着
- 09:35 高原バス乗車
- 11:37 富山駅到着、山本と合流
- 12:22 JR 富山駅発（JR 北陸本線）
途中 敦賀、長浜にて乗り換え
- 19:12 JR 京都駅到着

個人装備； ザック(60 以上)、 シュラフ(寝袋)、 レインウェア、 断熱マット、
ヘッドランプ、 着替え(上着など含)、 防寒着、 水(2 以上)、 食器類
予備電池、 タオル、 帽子(バンドナ可)、 非常食、 ライター(マッチ)
ゴミ袋、 トイレットペーパー、 ティッシュ、 折り畳み傘、 日焼け
止め、 お風呂セット、 身分証、 保険証(コピー可)、 新聞紙、 洗面用
具、 常備薬、 軍手、 ザックカバー、 行動食、 サブザック(リュック
可)、 飲料、 計画書、 ラジオ、 米 4 合、 ロウソク、 缶詰

団体装備； モンベル 4 人用テント、 コップエルセット、 ガス缶× 3、 調理用具
バーナーヘッド× 2



感想

藤田： 立山は子どもの頃から親に連れられてよく行っており、馴染み深い山でした。今回は、夏休み直前になって急に劔岳に登ろう！と思い立ち、個人的な想いから計画を立てました。立山までの移動は、多少お金はかかりましたがとても分かりやすく、また称名滝などの景色も楽しむことができました。

室堂を出発してからは大して高度を稼ぐこともなく、綺麗な景色を眺めながら楽しんで歩くことが出来ました。他の二人はかなりキツかったみたいでしたが…（笑）

劔へのアプローチは、（個人的には）落ちたら死ぬような岩場や、鎖場を一人楽しんでヒョイヒョイ登っていた感があります。さすがに、途中にあった下が透けて見える足場や、カニのタテバイの最後のボルトは必死でしたが、それ以外はなんとなく楽しんでやっていました。自然と三点確保も出来ていた様に思います。頂上がガスっていたのが悔やまれますが、朝日も綺麗でしたしかなり満足でした。下りは、カニのヨコバイの最初の取り付きが難しかったです。一人先に行ってしまうことが多々あり、もうすこし考えなきゃなあと思いました。

室堂に降りてからは、二人にメインを預けて一人弥陀ヶ原まで徒歩で降りることにしました。（アプローチが全体的に短くて、もの足りなかったもので…）季節外れで植物はあまり綺麗ではありませんでしたが、前々から一度歩いてみたかったルートだったのでスイスイ歩けました。今度は滝を見に行こうと思います。

全体としては、日程的にも余裕があり、槍の反省を生かされたかなあと思います。ただ、三人では何か起こったときに対処できるギリギリの人数だったのでもう少しメンバーを集めるべきだと感じました。先頭を歩くことが多く、他の二人が前

を歩く機会が少なかったので、今後のレベルアップのためにも皆が先頭を歩けるように練習が必要だとも思いました。個人的には、岩登りが楽しかったので来年度もいきたいなあと思います。劔岳の難しさや怖さ、美しさは他の人の感想やHPの写真を参考にしてください。

鈴木： 今回の合宿は我が探検部2回生の晴れ男、藤田先生が参加してくれたおかげで全行程通して一滴の雨にも降られる事はありませんでした。日程は余裕があったのですが、立山3山縦走のあとに更に国内最難関とも言われている劔岳に登るというのは大変で、体力の衰えを感じずにはいられませんでした。特に劔山荘から先のルートはまさに崖っ淵で命の危険を何度も感じました。単独行だったら多分下山していたと思います。それくらい断崖絶壁の名にふさわしいところでした。残念な事に頂上ではガスってしまい景色を見ることは出来ませんでした。ほかのところで見られた景色は最高で、遠くは日本海まで見ることができました。また今回は3名の参加で、行く前は少し寂しいなと思っていましたが、いざ登るとなるとかなりキツイ山で道幅も狭いので、少数精鋭もなかなか良いなあと思いました。自分だけではなかなか行けないような山に行けて、いろいろな面で勉強になりました。今回の合宿の成功は、ひとえに藤田先生のおかげだったと思います。

山本(修)： 今後の課題は俺自身のことにつきるけど、やっぱり体力の向上かなー。一人でもショボイ奴があると全員のペースも落ちるしな(^_^;) でも他は食事の量も質もよかった(ハンバーグ以外 w)し、天候にも恵まれ無事に楽しく過ごせてかなり充実してたと思うで!!! 思い返して辛かったことと言えば帰りの電車のみやわ(笑)

